

特別講演

子どもの健全育成のためのゼロ次予防と コミュニティ・デベロプメント

前川 喜平 (神奈川県立保健福祉大学人間総合・専門基礎科)

はじめに

新エンゼルプラン、健やか親子21、次世代育成などの少子化対策と子育て支援政策が強く推進されているのにも拘わらず、虐待数の増加、同級生刺殺や幼児の突き落とし事件など、子どもが育つ環境は益々悪化している。子育て支援として、今までは子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、保健センター、保育所、幼稚園など地域における拠点づくりが主に行われてきた。子どもが健全に育つためには、これからは拠点を拡大した地域住民参画の保健と福祉が協働した、地域全体の子育て機能の向上が必要である。そのための政策として考えられるのがゼロ次予防とコミュニティ・デベロプメントである。

1. ゼロ次予防

公衆衛生的に疾病予防を図るとき、一次、二次、三次と3段階にわけて包括的な戦略を立てることが重要である。一次予防とは人々の健康管理を図り疾病の発生そのものを予防することで、健康教育、予防接種、栄養改善などが含まれる。二次予防とは疾病を早期に発見・治療し治癒させ、有病率を低下させる事をいう。がん検診は二次予防の代表的例である。三次予防は疾病に伴う後遺症や障害の予防、あるいは再発の予防をいう。ゼロ次予防とは上下水道の整備、空気汚染の防止、自然保護など人々が生活する環境整備をいう。この場合は子どもが育ちやすい環境整備をいう。

1) 自然と遊び場

現在は子どもの居場所は家庭か、コンビニかゲームセンターしかないといわれている。親の目を離れ、子ども同士が自由に、かつ安全に遊べる自然環境と遊び場の確保が必要である。われわれが子どもの頃は川や自然の野山が至るところにあり、子どもたちは自由に遊んでいた。現在は子どもが自由に遊べる自然環境はほとんど消失している。遊び場も至って少ない。子どもは遊び¹⁾により育つ。子どもが育つのは子ども同士の自由な遊び場が必要なのである。但し、現代の子どもたちは遊びを伝承されていないので、子どもたちに遊びを教えるボランティアのインストラクターが必要である。この試みは「冒険遊び場」²⁾「プレイパーク」などで全国に広がりつつある。父親たちは休日にはこの試みにぜひ参加し、子どもたちと一緒に遊んで欲しい。

2) マスメディアから子ども³⁾を守る

子どもは人間同士のふれあいにより育つ。テレビ、ビデオ、メール、携帯などは子どもたちからふれあいの機会を奪っている。ことに2歳以下の乳幼児ではテレビやビデオの見せ過ぎは、子どもが発達するふれあいの機会を奪い、ことばの遅れや、人間的発達を阻害する。これはテレビやビデオが悪いのではない、養育者の見せ方、リテラシーの問題である。乳幼児はテレビやビデオに興味を示すが情報は一方通行で、乳児が声を出しても反応がない。番組の内容よりもテレビやビデオが親の代わりが出来たかを討論して欲しい。マスメディアは知識を与えても、親の代わりのふれあいによる子育ては

できない。乳幼児とのふれあいが十分になされていけば家事の合間にテレビやビデオを見せるのは一向に差し支えない。

3) 無煙活動³⁾

喫煙や受動喫煙が問題となり、家庭や学校、診療所・病院における無煙活動が全国規模で行われている。

4) 自動販売機の撤去

青少年の喫煙と飲酒が問題となっている現在、地域におけるタバコと酒類の自動販売機を撤去すべきである。自動販売機では買いやすいが、店の人からは買いにくい。

2. コミュニティ・デベロプメント

コミュニティとは子どもが住んでいる地域の意味ばかりでなく、極低出生体重児、10代の母親、就労している母親、専業主婦など同じ立場に立つ人々をも意味する。社会には支援が必要いろいろなコミュニティが存在する。これらのグループの人々が安心して生活できる地域社会を作るのがコミュニティ・デベロプメントである。

1) 極低出生体重児

周産期医療センターでは早期産児、ことに極低出生体重児をフォローしているところが多いが、大部分は障害の早期発見を主としたもので、支援はあまり行われていない。これらの子どもたちは身体発育も小さく、発達も遅れていることが多いので、公園などで年齢を聞かれるのが嫌で、どうしても家に籠もりがちとなる。子ども同志で遊ぶ機会が極めて少ない。極低出生体重児⁴⁾⁵⁾の20～25%が脳性麻痺・知的障害などの明らかな障害、25～30%が学習障害や行動異常となり、正常は50%といわれている。障害の早期発見とともに支援が必要である。発達フォローは1歳半、3歳などのcritical age⁶⁾で行い、その他の月齢は支援を主とする。外来では医師以外にNICUの看護師、臨床心理士⁷⁾、栄養士など別の職種が話を聞くようにする。1歳半から2歳になったら、遊びを主とした早期介入を行う。微細神経学的徴候は異常ではなく特性と考え、その他のよいところを認め伸ばすようにする。認知障害による学習障害が疑われたときは個別教育プログラムを施行するが、認知障害

や運動拙劣を特性と考え、社会性の発達を心がける。障害をネガティブではなくポジティブに捉え将来の社会生活を目的とする。親がその子の発達を受容することが大切である。

2) ヤングママの会⁸⁾

足立区の東和保健総合センターの例を紹介する。保健師が地区活動をする中で、10代の妊娠・出産が目につくようになり支援の必要性を感じて平成13年11月より開始した。活動内容は10代後半から20代前半のママたちを対象とし、同年代の子育て中の仲間作り、楽しく子育てをすることを目的とし、月1回、自由遊び、おしゃべり、季節の行事などを行っている。ヤングママたちは自分の話を聞いてくれ、立場を受容されることが嬉しく、仲間作りとともに好評である。参加しているうちに、養育態度も好転することが多い。

3) 養育機能不全家庭の周産期からの支援

埼玉医大総合周産期母子医療センター⁹⁾におけるI小児科医の試みを紹介する。退院した中から虐待で死亡した症例を経験したことが動機となって、この試みが始められた。産科看護詰め所に連絡箱を設置し、養育に問題が生じる可能性がある症例を記入して貰い、勤務後、母親に面接し、承諾が得られれば、保健所に連絡し、外来での受診とともに支援を行った。この方法はNICU入院中の母親はよいが、短期日で退院してしまう正常産の母親と十分面談ができない、精神疾患を合併している妊婦は母乳や投薬などで精神科医との連携がうまくいかない、臨床心理士や他のスタッフの協力が得られないなど、個人の善意の限界を示す問題がある。小児科医の勤務交代でこの方法は中止となってしまった。周産期から関わった最初の報告と考えられるが、ハイリスク家庭の早期発見はシステムがないと個人の努力だけでは不可能なことを示したものである。

4) ひだまりの会(福岡)¹⁰⁾(都会型支援システム)

隣近所との付き合いがない都会型の例である。未就園児の乳幼児とその親子を対象としてボランティア講座で出会った仲間同志で始めた。特別のプログラム無しで、いつ来ても、いつやめても自由、来たいときにくる、育児の体験学習の場、仲間作りの場、気軽に相談、知ら

ないのが当たり前、出来ないのが当たり前をモットーにしている。親の話を聞き、受容する、問題があるときは、皆で子どもを受け入れ元気になると、元気な子どもの様子を見て親が変わる。参加した親が主体となり福岡地区に10箇所以上のひだまりの会ができています。会場の確保、人（ボランティア）の確保、親を家から引き出す、資金面、健診・保健所とサロンとの連携などが問題である。最近では保健所の入り口の部屋をサロンとし、玩具などを置き、親子が自由に遊べる溜まり場としている。ボランティアのために働き、その金を運営資金としている。実に明るい雰囲気のあるサロンである。

5) 兵庫県山南町母子愛育会¹⁰⁾(農村型支援システム)

隣近所がわかる共同体が残っている地域の例である。地区の母子愛育会会員による声かけ運動、子育て支援のための種々の催し物などの活動を行っている。活動資金が行政より賄われていることと、担当保健師を通して行政と直結しているのが特徴である。最近では集合住宅、核家族など都会型の家族が増え、家で孤立している親子との関わりが問題となっている。以前と異なり、子育て中の若い母親も会員として活動している。活動の世代の伝播も行われている。

6) 乳幼児の親子の溜まり場（サロン）

横須賀市における子育て支援センター¹¹⁾の例を紹介する。横須賀市（人口約43万）には常設・非常設8箇所の子育て支援センターがある。1箇所が幼稚園に委託、6箇所が横浜療育センターに委託、1箇所がボランティアにより運営されている。アイランド追浜、アイランド横須賀など地区の名称で呼ばれている所と「なかよし遊びの広場」など固有の名称の箇所もある。

アイランド追浜：京浜急行追浜駅前の西友の3階、市役所出張所隣にある。近くの幼稚園に委託し保育士3名が常在している。親子がいつ来ても遊べる、楽しく、明るい雰囲気がある（写真1）。

横浜療育センター委託の支援センター：療育センターから派遣された職員（教育を受けた家庭の主婦）のもとに主任児童員や民生委員が協力して運営されている。派遣職員が固定されておらず、地元と密着しておらず、民生委員などとの関係もなんとなくすっきりしない。堅い雰囲気

を受ける（写真2）。

安浦記念館「なかよし遊びの広場」：県立大学の近くにあり、月1回、主任児童員、民生委員、保育士、地元のボランティアにより運営されている。保育士による歌遊び、手遊び、親子遊びなど歌と遊びを主にしたもので、横須賀全域より毎回70～80組の親子が参加している。私は時間が許す限り育児相談で参加している。活気にみちた楽しい集まりである（写真3）。



写真1 アイランド追浜



写真2 アイランド横須賀



写真3 なかよし広場（安浦）

その他、横須賀市には常設の職員がいない子育てサロンが数箇所あるが、あまり利用されていない。乳幼児の親子の溜まり場である子育てサロンには遊具のほかに、誰か職員が常勤していることが必要である。職員がそこにいて、親から相談を気軽に受ける、なんでも相談できる雰囲気が良い。

7) 支援システム

私に関係している、よく機能している地域の支援システムとして東京都三鷹市、大阪府泉大津市、久留米市を中心とした筑後地区がある。

3. 子どもの健全育成に必要な地域の縦糸と横糸(図1)

子育て支援のための地域の保健所、児童相談所、保健センターなどの機関や保育所などの拠点を縦糸とすると、ボランティア活動、サークル、バリアフリー、ゼロ次予防などのコミュニティ・デバロプメントは横糸に例えられる。地

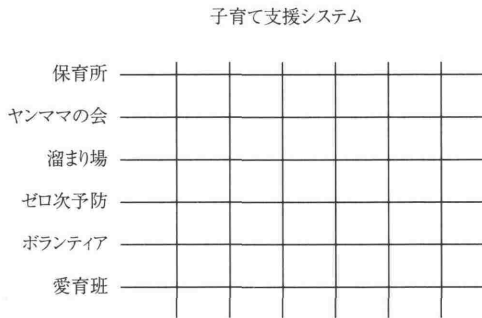


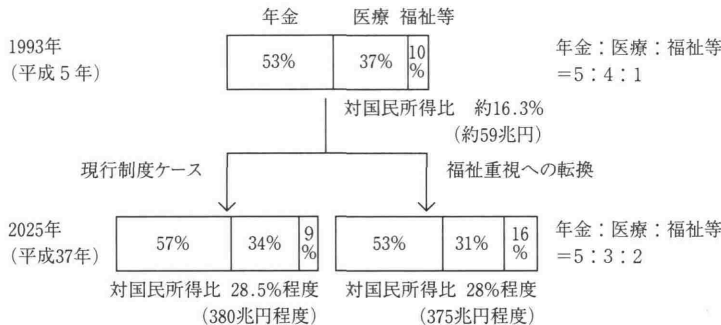
図1 子育て支援の縦糸と横糸

域の特色によりそれぞれの織物を織る。住民参画による拠点より地域全体への広がりを考えるとき、何が縦糸で、何が横糸なのかの明確な定義はないが、これからの支援システムを考えるときに、縦糸と横糸で特色ある織物を織る考えは大切なのではないか。

4. このような社会を実現するために

1) 福祉との協働

世の中の流れは福祉重視の社会保障へ転換しつつある。平成5年(1993年)¹²⁾に年金・医療・福祉費の比が5：4：1であったのが、30年後には5：3：2となる予定であった(図2)。医療費の抑制、老人保健法、介護保険の導入により、現在これに近い数値となったが、この間の老人関係の福祉が3.6%から9%に増加したのに対し、小児関係は3.4%が3.8%になったに過ぎない。福祉重視により生み出された金の大部分が小児ではなく老人に使われている。このことに関し、社会保険制度審議会¹³⁾による社会保障の範囲と定義(表1)をみると社会福祉のなかに身体障害者、知的障害者、老人、児童、母子等に対する福祉等とあり、その解釈として普通一般の社会生活をする上でハンディキャップを有していたり、社会において弱い立場にある国民に対して援助する制度との解説があり、普通の子どもや家庭は含まれていない。介護保険を職として生活している人はたくさんいるが、子育て支援を職としている人はほとんどいない。保育所の保育士は働く女性のためのものである。地域の子育て機能を向上させるために



(注) 国民所得の伸び率は2000年まで5%、それ以降4%。
出典 「21世紀福祉ビジョン——少子・高齢社会に向けて」1994年。

図2 福祉重視の社会保障への転換

表1 社会保障制度審議会による社会保障の範囲と定義 (1950)

社会保険	各自が保険料を出して各種のリスクに関し保障をする相互扶助の制度であり、社会保険は国、地方公共団体または法律に基づく特別の法人によって運営され原則として強制加入となっている	健康保険、年金保険、労働者災害保障保険、雇用保険、各種共済組合、介護保険
公的扶助	生活に困窮するすべての国民に対して国が最低限度の生活を保障し自立を助けようとする制度	生活保護
社会福祉	普通一般の社会生活をするうえでハンディキャップを有していたり、社会において弱い立場にある国民に対して国、地方公共団体などが援助しているという制度	身体障害者、知的障害者、老人、児童、母子等に対する福祉等
公衆衛生および医療	国民が健康に生活できるよう様々な事項についての予防、衛生のための制度。人の面に関するものを狭義の公衆衛生、物や生活環境に関するものを環境衛生とさらに分けることもある	結核、精神、麻薬、感染症対策、上下水道、廃棄物処理
老人保健	疾患構造の変化および高齢社会に対応し、総合的、一体的な保健医療施策を行うとともに、老人医療費を国民が公平に負担する、という制度	老人医療、保健事業

は福祉との協働がどうしても必要なのである。ハイリスク家庭の支援、虐待防止、主任児童員、民生委員など総て福祉なのである。子どもたちのために医療保健福祉の壁を取り除き連携することが必要である。

2) 住民資源の活用

地域資源の有効活用を考えると、老人と子どもを分けるのは非能率的である。参画した地域住民が年寄り、子ども、障害児・者など弱い立場の人々総てが住み易い社会を構築するために、挨拶、声かけ、支援に参加するのはどうであろうか。お互いに助け合い、支え合う、これにより弱い立場の人々総てが住み易い社会となる。これの実現には父親の育児参加を含め男性と企業の発想の転換が必要である。

3) 子育ての幸福論と現代の幸福論

子どもが健全に育つには最低、親心¹⁴⁾が必要である。親心とは子どもを可愛いと思ひ、大変な子育てに幸せを感じる、親であることの幸福論、弱者に関わる幸福論である。これにより優しさ、善性、忍耐が引き出され、社会に優しさ、思いやり、モラルが育つ。親心は引き出されないと出てこない。現在の社会は自由、自立、個性を大切に、自己実現、共同参画など強者の幸福論が世の中を支配している。弱者の幸福論と強者の幸福論は相反するのである。仮に親の大部分が強者の幸福論を人生の生きがいと感じた

とき、いくらシステムを整備しても子どもは健全に育たなくなる。弱者の幸福論と強者の幸福論が共存する現代社会を作るのにはどうしたらよいか、これからの問題である。未だ子育てに幸福を感じている親はたくさん存在している。親心は子育て期間中に必要で、子どもが育った後は母子分離をおこない、親としての人生を楽しむべきである。

4) 現代社会と7つの社会的犯罪

弱者の幸福論と強者の幸福論が共存するためには養育者ばかりでなく、子どもに関わる人総てが親心を持つことが必要である。それとともに社会の風潮を変えなければならない。このことで悩んでいたらインドのラージガードにあるガンジーの碑文¹⁴⁾に刻まれている「7つの社会的犯罪」の言葉が目についた。

- Politics Without Principles
理念のない政治
- Wealth Without Work
労働に基づかない富
- Pleasure Without Conscience
良心を伴わない喜び
- Knowledge Without Character
人格を伴わない知識
- Commerce Without Morality
道徳心を伴わない商い
- Science Without Humanity

人間性を伴わない科学

Worship Without Sacrifice

犠牲を伴わない信仰

現代社会は正に7つの社会的犯罪で溢れている。これでは親心は育たない。少子化は益々進むであろう。社会的犯罪がなるだけ少なくなるような社会を作ることがまず必要と考えられるがどうであろうか。経済的豊かさだけでは人は決して幸せにはならない。弱い立場の人々が安心して生活できる社会こそが、心が安らく社会なのである。強い立場の人々もやがては弱い立場の人になる。どちらが幸せか真剣に考えて欲しい。

文 献

- 1) 増山 均. 子どもの遊びとは何か. チャイルドヘルス 2005 ; 8 : 11-13.
- 2) 清川輝基: 人間になれない子どもたち, 第2版, 東京, 榊出版, 2003.
- 3) 大谷順子編集. 子どもとメディアの新しい関係を求めて. 福岡, 子どもとメディア研究会. 2003.
- 4) 禁煙指導書. タバコから子どもを守ろう. 東京, 日本小児科医会, 2003.
- 4) Jongmans M, Mercuri E, Dubowitz L. Minor neurological signs and perceptual-Motor difficulties in prematurely born children. 1997 ; 76 : F9-F14.
- 5) Resnick MB, Comatam SV, Carter RL, Ariet M etal. Educational Disabilities of Neonatal Intensive Care Graduate. Pediatrics 1998 ; 102 : 308-324.
- 6) 前川喜平, 乳児健診の神経学的チェック法. 改訂6版, 東京, 南山堂, 2004.
- 7) 前川喜平, 山口規容子編集, 育児支援とフォローアップマニュアル. 第1版, 東京, 金原出版, 1999.
- 8) み・ん・な・で・つ・く・る健康あだち21. 足立区, 2002.
- 9) 板倉敬乃, 退院後の問題が予想される母子との関わりについて. 第51回日本小児保健学会抄録集. 2004年, シンポジウム「小児保健と周産期医療: ハイリスク児をめぐる」: p37.
- 10) 地域における子育て支援システムの構築と普及に関する研究 (主任研究者: 山口規容子) 厚生科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業, 平成14年度報告書 子ども家庭総合研究所, 平成15年3月.
- 11) よこすか子育て支援計画 (平成15年度~平成19年度). 横須賀市, 平成15年2月.
- 12) 多田羅浩三, 小田兼三 共編. 医療福祉の理論と展開. 第4版, 2-13, 東京, 中央法規, 1998.
- 13) 千代豪昭和, 黒田研二編集, 医療概論 第2版, 東京, 医学書院, 2004 : 29-43.
- 14) 松居 和, 親心. 第1版, 東京, エイデル研究所, 2004.